

KITAGAWA TAMIMI RETROSPECTIVE: FROM MEXICO TO JAPAN

メキシコから日本へ



2024
6
29
SAT
▼
9
/
8
SUN

生誕
130年
記念

北川民次

展



名古屋市美術館

Nagoya City Art Museum

〒460-0008 名古屋市中区栄2-17-25 [芸術と科学の社・白川公園内]
TEL:052-212-0001 FAX:052-212-0005 <https://art-museum.city.nagoya.jp/>



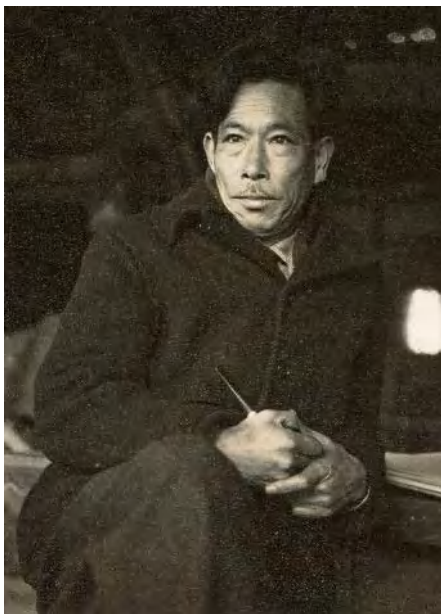
芸術と科学の社

メキシコと日本の架け橋となった芸術家、北川民次 約 30 年ぶりの回顧展

メキシコで画家・美術教育者として活動した北川民次（1894-1989）。日本へ帰国後は、東京や愛知を拠点に洋画壇で活躍し、子どもの美術教育や壁画制作にも挑みました。約 30 年ぶりの回顧展となる本展では、北川がメキシコ時代に交流した作家や美術運動との関わりも視野に入れながら、彼がメキシコで学び日本へ帰国後も貫いてきた芸術への信念を再考します。

また本展では、北川の美術教育者としての側面にも注目します。北川はメキシコで野外美術学校の教師を務めた経験を活かして日本で児童美術学校を主宰し、美術批評家の久保貞次郎らの協力を得て絵本制作を行うなど、創造性をもった人間づくりを目指す美術教育に携わりました。現代でもなお示唆に富む革新的な方針やその手法を、生徒の作品や当時の資料とともに紹介します。

絵画作品約 70 点を含む約 180 点の作品と資料によって、洋画家・壁画家・絵本制作者・美術教育者など多彩な側面をもつ北川民次の魅力に迫ります。



北川民次 KITAGAWA Tamiji

静岡県生まれ。1914年にアメリカに渡って美術を学び、1921年から約15年にわたりメキシコで画家・美術教育者として活動。1936年の帰国後は東京の洋画壇で活躍し、第二次世界大戦後は瀬戸を拠点に制作を続けた。

1949年 撮影：松谷錦二郎

展覧会のみどころ

1 約 30 年ぶりの大規模な回顧展

1996 年に開催されてから約 30 年ぶりの大規模な回顧展となる本展覧会。作家ゆかりの東海地方をはじめ、宮城、新潟、栃木、愛媛など、全国各地に所在している作品をまとめて見ることが出来る貴重な機会です。

2 北川民次の多彩な活動を紹介

洋画家、壁画家、絵本作家、そして美術教育者など、様々な方面で活躍した北川民次。本展では多様な作品と資料から、まだ十分に知られていない北川民次の魅力を紹介します。

3 メキシコの精神を汲んだ国際的な作家

北川はメキシコで様々な作家と交流しながら自らの創造性を育みました。同時代のメキシコで活動した画家ルフィーノ・タマヨや写真家ティナ・モドッティ、北川と親交のあった藤田嗣治などの作品もあわせて紹介し、メキシコと日本の架け橋となった作家の姿に着目します。



《トラルパム霊園のお祭り》1930年 名古屋市美術館

展 示 構 成

第1章 民衆へのまなざし

アメリカのモダニズムの文脈をいかに汲んでいるかをメインに紹介。北川はアメリカ時代に舞台美術の仕事をする傍ら、アート・スチューデントズ・リーグに在籍します。ジョン・スローンら社会派の画家たちから学んだ「民衆を描く」姿勢は、生涯を通じて制作における重要なテーマの一つとなりました。

現実を見つめ、民衆を時には醜くも描くことによって、その背後にある社会の矛盾まで批判的に描き出そうとする姿勢に注目します。



《水浴》1929年、刈谷市美術館



《アメリカ婦人とメキシコ女》
1935年(1958年補筆)、郡山市立美術館



《鉛の兵隊 (銃後の少女)》1939年、個人蔵



《焼跡》1945年、名古屋市美術館

第2章 壁画と社会

メキシコ・ルネサンスの壁画運動との共通点や差違をメインに紹介。北川は日本へ帰国後、藤田嗣治の勧めもあり、メキシコの風俗を壁画のような大画面に描き、二科会の会員になります。戦時中は、壁画を志向した異時同図的な画面構成で労働者の様子を描き、戦後は支配するものとされるものという構造や、さらに社会問題を主題として取り上げるようになりました。

絵画は美しく装飾的で人の心を癒すべきだという考えを否定し、強いメッセージや思想を表現する作品を描こうと葛藤し続けた作家の仕事を取り上げます。



《タスコの祭》1937年、静岡県立美術館



《大地》1939年、新潟県立近代美術館



《農漁の図》1943年、東京都現代美術館



《雑草の如くII》1948年、名古屋市美術館

第3章 幻想と象徴

壁画運動から距離をおいたメキシコの作家たちからの影響をメインに紹介。北川は1950年代に、壁画の下絵や部分絵としての絵画を描くことから、額縁に入った絵画（タブロー）の制作へ関心を移します。新しい表現を模索するなかで、メキシコの作家ルフィーノ・タマヨの造形表現を参照しました。宙を飛ぶ女性や黒い人影など、シュルレアリスムに接近した不思議な絵画空間を描き出します。また、戦時および戦後に描かれた象徴的な風景は、しだいに社会問題への婉曲的な批判にもつながっていきました。



《メキシコ静物》1938年、東京国立近代美術館



《岩山に茂る》1940年、個人蔵



《農園の夢》1943年、個人蔵



《工場》1961年、豊田市美術館

第4章 都市と機械文明

メキシコの前衛的な芸術グループからの影響を紹介。北川は、都市や建物の風景をダイナミックに歪んだ遠近法で切り取り、工場や機械の形態の面白さに注目した作品を、晩年に至るまで制作します。これには2つの影響が考えられます。一つは、メキシコ時代から高く評価していた、アメリカの画家、ジョン・マリンの風景画。ジョン・マリンはニューヨークの1930年代、急速に都市化していく街の様子を水彩画に描きました。もう一つは、北川がメキシコにいた頃の前衛動向、エストリデンティスモ。喧騒主義と訳され、メキシコの未来派とも言われる動向です。イタリア出身の写真家のティナ・モドッティも参加したこの動向において彼らは、都市文化の象徴ともいえる高層建築や機械、ラジオなど通信技術を取り上げました。本章ではそうした都市や機械文明に注目した作品を取り上げます。



《赤い家とサポテン》1936年、個人蔵



《池袋風景》1937年、愛知県美術館



《砂の工場》1959年、愛知県美術館



《赤いオイルタンク》1960年、瀬戸市美術館

第5章 美術教育と絵本の仕事

1920年代に隆盛したメキシコの美術教育からの影響を中心に紹介。北川が参加したメキシコの前衛運動「¡30 - 30!」はアカデミズム的な教育を否定するもので、美術や文化を知識人から解放しようとする姿勢をもっていました。多くの人に思想を伝達するメディアとして機能したのが複製可能な版画で、壁画とは違ったかたちで芸術を民衆へ近づける役割を担ったと言えるでしょう。

また北川はトラルパンとタスコの野外美術学校で美術教育に従事し、その自発的な表現や制作を尊重する理念を学びました。帰国後は、美術批評家の久保貞次郎らと交流して「コドモ文化会」を設立、絵本制作に熱中します。

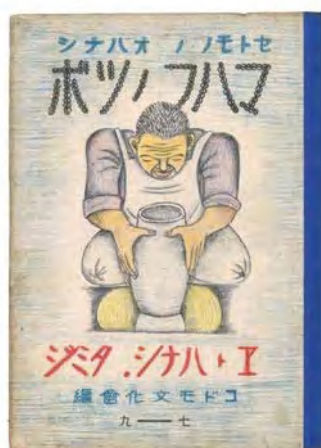
戦後は、画家仲間と協力し名古屋の東山動物園で児童美術学校を開設するなど、メキシコの野外美術学校の理念を日本でも実践しようとしてしました。自分の経験をもとに描く対象に対する認識まで描きだす、という教え子から学んだ視点は、北川自身の絵画にも活かされていきました。



《結婚通知状》1929年（木版・手彩色）



《ロバ》1928年、愛媛県美術館



絵本『マハフノツボ』[表紙] 1942年



名古屋動物園児童美術学校 集合写真
1949年 撮影：松谷錦二郎

エピローグ 再びメキシコへ

メキシコ再訪旅行を契機にした制作の展開を中心に紹介。北川は1955年にメキシコを再訪し、旧友と親交を深めるとともにモザイク壁画の可能性に注目しました。メキシコの陶器と比較し、瀬戸の陶磁器産業の技術力の高さを認識します。さらに1956年にはアメリカとヨーロッパを周遊し、ルネサンス以前のモザイク壁画に感銘を受けました。日本へ帰国以降には、瀬戸の職人と協働して公共の場所に設置するモザイク壁画の制作に次々と取り組みます。

瀬戸市や名古屋市内に現存する壁画をはじめ、北川民次の芸術を後世へ引き継ごうとする活動の紹介を通して、今なお人々に愛される北川民次像にも注目します。



《メキシコ市場の一隅》1956年、東京都現代美術館



瀬戸市図書館陶壁原画 《知識の勝利》《勉学》《無知と英知》1970年、瀬戸市美術館

開催概要

- 展覧会名 生誕 130 年記念 北川民次展ーメキシコから日本へ
Kitagawa Tamiji Retrospective: From Mexico to Japan
- 会 期 2024 年 6 月 29 日（土）ー9 月 8 日（日） [62 日間]
開館時間：9:30ー17:00、金曜日は 20:00 まで
（入場は閉館の 30 分前まで）
休館日：月曜日（7 月 15 日 [月・祝] と 8 月 12 日 [月・休] は開館）、
7 月 16 日 [火]、8 月 13 日 [火]
- 会 場 名古屋市美術館
〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 [芸術と科学の杜・白川公園内]
TEL：052-212-0001 FAX：052-212-0005
- 主 催 名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、中日新聞社、
日本経済新聞社、テレビ愛知
- 後 援 JR 東海、名古屋市立小中学校 PTA 協議会
- 協 力 名古屋市交通局
- 観覧料 一般 1,500（1,300）円、高大生 900（700）円、中学生以下無料
（ ）内は通常前売・20 名以上の団体料金
- 関連催事 [学芸員による解説会]
日時：①7 月 13 日（土）14:00ー15:00
②8 月 18 日（日）14:00ー15:00
会場：名古屋市美術館 2 階講堂
定員：180 名（先着順、定員になり次第締切）
講師：勝田琴絵（名古屋市美術館学芸員）
※入場無料。ただし聴講には本展の観覧券（観覧済みの半券も可）が必要。
- 公式サイト 名古屋市美術館 <https://art-museum.city.nagoya.jp/>
- 巡回先（予定）
2024 年 9 月 21 日（土）ー11 月 17 日（日） 世田谷美術館 [東京]
2025 年 1 月 25 日（土）ー3 月 23 日（日） 郡山市立美術館 [福島]

「生誕 130 年記念 北川民次展—メキシコから日本へ」

広報用画像の提供について

特別展「生誕 130 年記念 北川民次展—メキシコから日本へ」をご紹介いただく際の広報用画像を提供いたします。下記注意事項をご確認の上、専用フォームにより申請してください。

広報用画像提供依頼専用フォームは [こちら](https://logoform.jp/form/mX9C/551679)
→ <https://logoform.jp/form/mX9C/551679>



● 展覧会をご紹介いただく場合

・本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で校正を下記問い合わせ先までメールにてお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

・掲載・放送後は、掲載紙・誌、または同録データもしくは DVD 等を 1 部お送りくださいますようお願いいたします。WEB サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

● 画像掲載について

・画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載はお断りします。また本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はご連絡ください。

・ご使用の際は、指定のキャプション表記をお願いします。ただし素材技法の表記については、スペースがない場合は省略可とします。

・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。

・以上の点にご留意いただけない場合、所有者などとの間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。

・画像は原則データでの送付とさせていただきます。必ずメールアドレスをご記載ください。

● 読者プレゼントの提供について

・本展をご紹介いただく場合、ご希望があれば本展招待券を貴媒体読者プレゼント用に提供します(5 組 10 名様まで)。専用フォームにてお申し込みください。

● 展覧会の取材・撮影について

・本展の取材・撮影をご希望の場合は事前にご連絡ください。ご連絡がない場合、お断りすることがあります。

【広報に関するお問い合わせ】

名古屋市美術館（広報担当：魚住）

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 TEL：052-212-0001 FAX：052-212-0005

メール：ncam_gakugei@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

特別展「生誕 130 年記念 北川民次展—メキシコから日本へ」広報用画像一覧

画像	キャプション	画像	キャプション
1. 	北川民次 1949年 撮影：松谷錦二郎	7. 	北川民次《雑草の如くII》1948年 油彩／キャンバス 名古屋市美術館
2. 	北川民次《トラルパム霊園のお祭り》1930年 油彩／キャンバス 名古屋市美術館	8. 	北川民次《岩山に茂る》1940年 テンペラ／キャンバス 個人蔵
3. 	北川民次《アメリカ婦人とメキシコ女》1935年（1958年補筆） テンペラ、油彩／板 郡山市立美術館	9. 	北川民次《砂の工場》1959年 油彩／キャンバス 愛知県美術館
4. 	北川民次《鉛の兵隊（銃後の少女）》1939年 油彩／キャンバス 個人蔵	10. 	北川民次《ロバ》1928年 油彩／キャンバス 愛媛県美術館
5. 	北川民次《タスコの祭》1937年 テンペラ／キャンバス 静岡県立美術館	11. 	絵本『マハフノツボ』（表紙）1942年
6. 	北川民次《農漁の図》1943年 油彩／紙、板 東京都現代美術館	12. 	北川民次《瀬戸市立図書館陶壁原画勉強》1970年 グワッシュ／紙 瀬戸市美術館

展覧会紹介文例

【50 文字程度】

北川民次の約 30 年ぶりの回顧展。約 180 点の作品と資料で、メキシコと日本を越境して活躍した作家の実像に迫る。

【100 文字程度】

北川民次の約 30 年ぶりの回顧展です。北川はメキシコで活動後、東京や愛知を拠点に洋画壇で活躍し、子どもの美術教育や壁画制作にも挑みました。絵画約 70 点を含む約 180 点の作品と資料によって作家の実像に迫ります。

【150 文字程度】

北川民次（1894-1989）の約 30 年ぶりの大規模な回顧展です。北川は 1920-30 年代のメキシコで画家・美術教育者として活動後、東京や愛知を拠点に洋画壇で活躍し、子どもの美術教育や壁画制作にも挑みました。本展では、北川がメキシコ時代に交流した作家や美術運動との関わりも視野に入れながら、約 180 点の作品と資料によって作家の実像に迫ります。

【200 文字程度】

北川民次（1894-1989）の約 30 年ぶりの回顧展です。1920-30 年代のメキシコで画家・美術教育者として活動した北川民次。帰国後は、東京や愛知を拠点に洋画壇で活躍し、子どもの美術教育や壁画制作にも挑みました。本展では、絵画作品約 70 点を含め約 180 点の作品と資料によって、北川がメキシコで学び日本へ帰国後も大事に持ち続けたものを再考します。洋画家・壁画家・絵本制作者・美術教育者など多彩な側面をもつ北川民次の実像に迫る展覧会です。